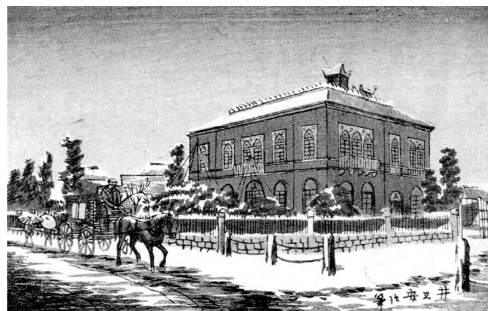


お金の豆知識

金座跡地と 日本銀行

日本銀行金融研究所貨幣博物館

●日本銀行は、明治15年（1882年）10月に開業しました。当初の本店の店舗は、できるだけ早く開業するために、既にあった施設を利用することになり、現在の中央区日本橋箱崎町（はこざきちょう）にあった旧北海道開拓使（かいたくし）物産売捌所の建物を利用しました。



開業当時の日本銀行
「永代橋際日本銀行の雪」
（井上安治画）

●しかし、この店舗は狭く、官庁や商業・金融の中心地からも少し離れていて不便でした。このため、開業後間もなく、本店業務を円滑に行うことのできる新しい建物の建設用地の検討を始め、足掛け10年の歳月をかけて中央区の常磐橋（ときわばし）の東側一帯の地域、つまり、現在の日本橋本石町（ほんごくちょう）の土地を購入するに至ったのです。

●実は、こうして入手した土地の大部分は、江戸時代に小判などの金貨を鋳造（ちゅうぞう）していた金座の跡地だったのです。金座は明治2年（1869年）に造幣局に吸収され廃止となりましたが、日本銀行がこの跡地を購入してから、金座跡地ということで土砂に混じっている金粒を目当てに、土砂の採掘を願い出る人が後を絶ちませんでした。

●そこで、日本銀行では、明治21年（1888年）から23年（1890年）にかけて、いくつかの会社に委託して採掘をしてもらったところ、相当量の金粒が収集され、当時のお金で1千円余りにもなったそうです。

日本銀行本店の建物

コラム

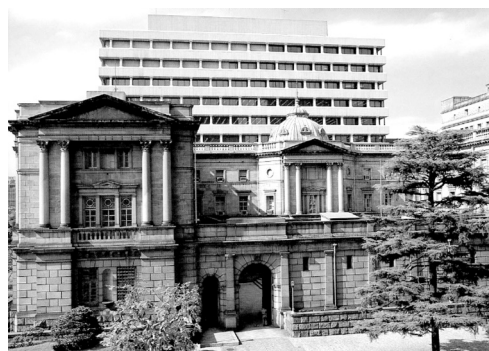
✎ 開業当初の日本銀行本店となった旧北海道開拓使物産売捌所の建物は、鹿鳴館（ろくめいかん）の設計者として有名な工部省（現在の国土交通省）雇いの英国人ジョサイア・コンドルが設計したものです。明治14年（1881年）に完成し、ベネチアン・ゴシック式の重厚で美しい外観を持った建物として、人々の注目を集めました。しかし、オフィスとしては狭く不便だったため、当時の交通の要所で、商業・金融の中心地であり、大蔵省（現在の財務省）や紙幣寮（現在の印刷局）にも近い現在地（日本橋本石町）に移転することになりました。

✎ 新しい本店の建設に当たっては、「将来を展望し、堅固・宏壮（こうそう）なものを作る」との方針を当時の日銀総裁・川田小一郎（かわだこいちろう）が打ち出し、その設計を、コンドルの教えを受けた新進気鋭の建築学者辰野金吾（たつのきんご）博士に依頼しました（同博士はのちに東京駅や旧両国国技館の建築も手掛けました）。

✎ 辰野博士は、明治21年（1888年）から22年（1889年）にかけて欧米各国の中央銀行などを視察し、当時としては比較的新しいベルギーの中央銀行の建物について、特に詳しく研究しました。そして、明治23年（1890年）9月、建築所を設置して新築工事に着手したのです。この建築所では、総責任者に安田善次郎（やすだぜんじろう）監事、監督に辰野博士が就任したほか、建築事務主任（2代目）には、のちに第7代日本銀行総裁となる高橋是清（たかはしこれきよ）が起用されています。

✎ 当初は明治27年（1894年）に完成する予定でしたが、途中発生した日清（にっしん）戦争による資材や職人の不足などから工事がなかなか進まず、明治29年（1896年）2月ようやく完成しました。これが、現在の旧館です。

✎ この旧館（本館）は、石積・煉瓦造による古典主義建築で、赤坂離宮（あかさかりきゅう）（現在の迎賓館〈げいひんかん〉）とともに明治時代の洋風建築の2大傑作と言われており、昭和49年（1974年）2月に、国の重要文化財に指定されました。



現在の日本銀行